

いわき農林水産ニュース

平成31年1月号(第167号) 発行 1月31日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



ヤナギムシガレイ

おいしい地魚の干物は数あれど…。
ヤナギの干物は指折りの絶品！
ぜひご賞味あれ！

目次

- ・【新春を迎えて】福島県農林水産部長 年頭挨拶…p.1
- ・【インタビュー】いわき市本田農林水産部長に聞く p.2

〔各種取組の実績(12~1月)〕……………p.6~

〔お知らせ・連載記事〕

- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果…p.8
- ・林野火災にご注意！……………p.8
- ・【速報】高校生レシピコンテスト グランプリ決定！p.9
- ・イベント情報……………p.10
- ・GAP コーナー……………p.11
- ・6次化商品紹介……………p.12

新春を迎えて

福島県農林水産部長 年頭挨拶

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、本格販売を開始した「里山のつば」を始めとする県産米の県外取扱店が1,000店舗を超え、福島牛や水産物の販売棚を常設設置する店舗が増加するとともに、「ふくしま型漁業」の確立に大きな一歩を踏み出す水産資源研究所を開所するなど、震災からの復興と創生を一層加速させた一年でありました。

また、将来の担い手として期待される新規就農者が平成27年から4年連続で200名を超え、桃や梨、米など農産物の輸出量が震災前を超え過去最高の実績となるなど、本県農業の未来に明るい希望を実感しております。

さらに、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、東日本大震災の被災地で初めてとなる南相馬市の海岸防災林で開催した第69回全国植樹祭においては、国内外からいただいた御支援に対する感謝の気持ちと復興に向けて力強く歩み続ける本県の姿を広く発信することができました。

いわき地方においては、全国各地から1ターン移住者を受け入れ、農業体験イベントなどにより都市住民との交流を進めた「貝泊コイコイ倶楽部」の取組が評価され「豊かなむらづくり全国表彰事業」で農林水産大臣賞を受賞されたほか、林業においては、全国植樹祭と併せて「第47回全国林業後継者大会 2018 福島大会 in いわき」を開催し、県内外から多くの林業関係者に参加いただき、豊かな森林資源を次世代に継承する思いを全国に発信しました。

県といたしましては、復興・創生期間の後半に入る平成31年度は、これまでの成果と復興・創生期間後のステージの両方を見据えながら、『流通・販売の強化』、『生産活動の拡大』、『生産基盤の整備』の3本を柱として、本県農林水産業の再生と成長産業化に向けた取組をしっかりと進めたいと考えております。

特に、認証GAPの取得促進やオリジナル品種の開発、先端技術の導入普及等により力強い生産体制を確立するとともに、「ふくしまプライド。」のブランド力向上を図り、マーケットインを起点として、生産から流通、販売に至るまで、幅広く農林水産業の復興を図ってまいりますので、本年も皆様の御支援と御協力をお願いいたします。



福島県農林水産部
佐竹浩部長

平成30年10月22日
「ふくしま^{うりこめ隊}売米隊」
出発式にて

新春インタビュー

いわき市 本田農林水産部長に聞く ～2019年のいわき市の取組について～

インタビュアー：あけましておめでとうございます。

新春を迎えて、いわき市において2019年新たに取り組む重点的な施策について、いわき市農林水産部 本田和弘部長にお話を伺いたいと思います。本田部長、よろしく願いいたします。

本田部長：あけましておめでとうございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

インタビュアー：早速ですが、まずはいわき市の“農業”分野で、2019年に取り組みたい重点的な施策を教えてください。



いわき市農林水産部
本田和弘部長

本田部長：まず、いわき市産コシヒカリ「Iwaki Laiki」のブランド化戦略があります。いわきの農産物の安全性への信頼は、原発事故の影響で一時落ち込んでいましたが、平成26年10月、そんなイメージを払拭したいという思いを込めた華やかなパッケージで「Iwaki Laiki」が誕生（写真①）し、平成29年産米は、ついに年間販売数1,000tを突破しました。さらに、いわき産をはじめとする浜通り産コシヒカリは、日本穀物検定協会の食味官能試験で、平成28年・29年の2年連続で最高ランク“特A”を獲得するなど、ますますそのおいしさが認められつつあります。



①「Iwaki Laiki」
パッケージ

平成28年には、最高級で最高品質の「Premium Iwaki Laiki」が誕生し、贈答用や晴れの日に食べるおめでたいお米として、地域への浸透をさらに図っていきたいと思います。

特徴的な「Iwaki Laiki」の取組としては、スポーツを通じたプロモーションに力を入れている点です。「いわき米応援プロジェクト」を立ち上げていただいた明治大学ラグビー部の選手への激励のため、平成30年10月に「Iwaki Laiki」600kgを提供した（②）ほか、平成30年12月には、「福島さくら農業協同組合」、いわきFCを運営する「株式会社いわきスポーツクラブ」、私が会長を務める「いわき地域の恵み安全対策協議会」の3者で、「Iwaki Laiki」等のプロモーションに係るパートナーシップ協定を締結（③）したところです。さらに、今年1月には「いわき地域の恵み安全対策協議会」スポンサーによるいわき平競



②明治大学へ「Iwaki Laiki」
600kg 提供

輪「Iwaki Laiki CUP」(④)が開催されました。「Iwaki Laiki」を提供した明治大学ラグビー部は、22年ぶりに全国大学選手権大会で日本一という素晴らしい成績を収められ、今後も“優良アスリートのエネルギー源として食されるブランド米”という「Iwaki Laiki」のパブリックイメージ定着を目指していきます。



③「パートナーシップ協定」締結



④「Iwaki Laiki CUP」開催

いわき市では、「いちご」「トマト」「なし」「ねぎ」を「ブランド作物」と位置づけ、積極的に施策展開を行っているところですが、特に「トマト」と「いちご」については、第三者認証GAPの取得が進んでいます。近年、品質や価格だけでなく食の安全・安心に対する声が高まっていることに加え、東京オリンピック・パラリンピックで提供する食材にはGAP取得が必須条件となり、ますますGAPの重要性が高まっています。今年も、GAPに関する知識の周知、取組の強化をしていくとともに、生産者だけでなく消費者にも、そのメリットをPRしていきたいと考えています。

また、“知ってもらう”だけでなく、実際に“食べてもらう”取組の一つとして、本年2月24日(日)には「いわきいちご・いわきねぎフェスティバル2019」の開催を予定しています。さらに、



⑤「サンシャインいわき梨」のベトナム輸出

平成29年度から始まった「サンシャインいわき梨」のベトナム向け輸出(⑤)では、平成30年産は品種・数量ともに平成29年より増加するなど、いわきの農産物を海外の方に味わっていただく機会も着々と広げており、本年1月にはベトナムの旧正月に合わせ市長によるトップセールも実施しました。

今後も、様々な施策を通して、県と連携しながら、いわきの農産物の「おいしさ」と「安全性」を広くPRしていく考えです。

インタビュー：続いて、同じ「食」の分野である“水産業”について、重点的な取組としてどのようなことがありますでしょうか。

本田部長：農林水産業の中でも、特に3.11の影響を大きく受けてしまった水産業は、現在も試験操業が続いており、安全性に対する消費者の誤解も今もなお十分に払拭されていないことから、関係者と心を合わせ地道に取り組んでいく必要のある分野です。

わたしたちは、流通・小売業者、そして消費者のニーズをしっかりと捉え、生産者とうどうコーディネートしていくかという“マーケットイン”的発想で、地産地消に取り組むことが重要と踏んでおります。平成30年10月には、生産・流通・小売の関係者を一堂に集めた協議会を開催し、販路拡大に向けた事業検討会を実施しましたが、今後も引き続き同様の取組を進めていきます。

その他の取組としては、首都圏向けの「常磐もの」のPR情報誌「常磐ものにどきどき」(⑥)を作製し、主に都内の郵便局100局で15,000部配布しました。また、県漁連、県、イオンリテール株式会社が連携して首都圏で「常磐もの」の常設棚を設ける「福島鮮魚便」が今年度スタートしましたが、首都圏に、「ここに行けば常磐ものが買える」という場所ができたのは大きな変化だと思いますので、今後も消費拡大に向け連携を図っていきたいと思います。

市内での取組としては、「常磐ものを食べようキャンペーン」(⑦)と題して、鮮魚店を対象に9月から10月の2か月間、市内スーパー44店舗では11月の1か月間に渡って実施したところです。今年も引き続き、「常磐もの」のさらなる認知度向上を図るため、効果が高いと判断できる事業に積極的に取り組みたいと考えています。

近年、日本の食卓では「魚ばなれ」が進みつつあるといわれていますが、現在、市議会では、魚食の普及に関する条例の制定に向けて検討を進めているところです。これを一つの契機として、市民に対する魚食の普及、いわき市産水産物の地産地消による消費拡大に取り組んでいきます。



⑥「常磐ものにどきどき」



⑦常磐ものを食べようキャンペーン

インタビュー：続いて、“林業”の取組についてはいかがでしょうか。

本田部長：本市の民有林面積の約57%を占める人工林約3万haのうち、約76%の森林が木材利用期を迎えています。このうち、森林経営計画が作成されている森林は約半数です。残りの森林をいかに有効に活用していくか、それが今後の課題です。

そんな中、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図るため「森林経営管理法」が平成31年4月1日に施行されることとなっています。その財源として「森林環境譲与税(仮称)」が交付される予定ですので、これを活用して森林所有者の意向調査等を行い、経営困難な森林の集約・管理等をしながら木材の有効活用に努めます。

地域材の利用拡大についてですが、特に大きな要素である市内の公共建造物の木造化・木質化(⑧)を積極的に推進するほか、東京都港区内の建造物にいわき市産木材を積極的に利用いただくため、平成29年10月に港区と本市との間で協定を締結しました。今後も市内の登録事業者を増やしていくなど、様々な機会を捉えて市産木材の利用拡大に努めてまいります。



⑧公共建造物の木造化・木質化
(休日夜間急病診療所)

インタビュアー：ありがとうございました。最後に、その他の取組でお話しいただけることはありませんでしょうか。

本田部長：そうですね。年末から動き出している施策として、今大きな転換期を迎えている卸売市場の取組があります。いわき市には、中央、地方と2つの卸売市場がありますが、卸売市場法の一部改正により市場開設者の制限撤廃や取引規制が緩和され、市場ごとの判断に基づきルールを定めることとされるなど、卸売市場は活性化に向けた変革の時を迎えています。いわき市では、来年の改正法施行に向け、昨年12月に委員会を設置し、卸売市場の新たなルール策定の検討を始めているところです。広く市民の方々に市場の機能や重要性に触れていただくとともに、安全・安心な食品等の供給に取り組んでまいります。

インタビュアー：本田部長、ご回答ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いいたします！

トピック1

いわきの復興基盤総合整備事業をラジオで紹介！〔1月29日(水)〕

1月29日、ラジオ福島 of 県政広報番組「ふくしまチャレンジ通信」でいわき地方における津波被害を受けた農地の復旧状況について放送されました。森本アナウンサーと当所農村整備部の先崎技師によるスタジオでの対話形式で、下仁井田地区、夏井地区、錦・関田地区の進捗の状況、震災当時の農地の状況、農家の皆様の声、苦労した事や復興にかける職員たちの想い等が収録されています。

(農村整備部)

ラジオ福島では、過去の番組をホームページでポッドキャスト※配信しています。聞き逃した方はぜひ下記のアドレスからご拝聴ください。

☆ラジオ福島公式HP
→<http://www.rfc.jp>

※携帯電話等に保存可能な配信番組



左：ラジオ福島 森本アナウンサー
右：いわき農林事務所 先崎技師



(収録風景)

いわき市中央卸売市場・公設地方卸売市場の初市式開催〔1月4日(金)・5日(土)〕

いわき市中央卸売市場・公設地方卸売市場において、平成31年初市式が開催されました。初市式は、1月4日に花き部、1月5日に水産部・関連事業部・青果部と各部ごとに行われ、市場開設者の清水敏男いわき市長の挨拶、菅波健いわき市議会議長の祝辞の後、各部代表者の発声による手締めが行われ、一年の活況を祈念しました。



(青果部関係者による手締め)

その後、初競りが行われ、花き部では薔薇やカーネーションなどの色彩豊かな花々が競りにかけられ、場内が活気づきました。また青果部においては、初競りと併せ、投げ餅が行われ、野菜・果物などで飾られた宝船が競り人のかけ声に応じて次々と競り落とされていきました。



(花き部初競りの様子)

今後も市内食品流通の核として、生鮮食品などの安定供給が期待されます。(農業振興普及部)

平木材市場の「初市」開催

〔1月11日(金)〕

市内内郷綴町の株式会社平木材市場において、平成31年「初市」が開催されました。

式典では、平木材市場齋藤公男社長をはじめとする新春の挨拶の後、参加者全員で乾杯が行われ、今後の平木材市場の発展及び取引の活性化を祈念しました。

市場内には、年末年始にかけて県内を中心に集められた素材約3,500m³と製材品約1,500m³が所狭しと並べられ、今年最初の競りにかけられました。



(「初市」の様子)

良質材が出てくる冬の時期ということもあり、いわき市内をはじめ県内外から集まった買方は、熱心に競りに参加していました。(森林林業部)

平成30年度ふくしま米オール“特A”獲得推進事業報告会〔12月20日(木)〕

J A福島さくらいわき地区本部で、いわき地区本部営農販売課の主催する「平成30年度ふくしま米オール“特A”獲得推進事業報告会」が開催されました。

本年度、管内ではJ A福島さくらいわき地区本部が本事業を活用し、7月に四倉町下仁井田地区の約16haの基盤整備実施後のほ場でリモートセンシングによる生育診断を行いました。報告会では生産者と関係機関・団体がお米の食味試験を行い、「生育・地力」のムラと食味への影響について意見交換を行いました。



(報告会の様子)

(農業振興普及部)



いわき地方りんどう栽培セミナー

〔12月21日(金)〕

「いわき地方りんどう栽培セミナー」を、いわき市と当所の共催で、いわき市川前活性化センターにおいて開催しました。川前地域を中心に、田村市や川内村などから、りんどう生産者等25名が参加しました。

セミナー前半では、「^{かいけい}塊茎からみたリンドウの多年生ライフ～栽培管理を考えるヒント」と題し、岩手県農業研究センター・主任専門研究員の阿部弘先生による講演を行いました。普段は地中に埋もれて見ることができない塊茎の生育の仕方に、生産者も興味津々でした。



(講演の様子)

後半には、近隣産地の状況報告を経て、グループワーク形式による全員参加型の意見交換を行いました。生産者から関係機関・団体まで多様な意見を出し合い、時間ぎりぎりまで熱い議論が行われました。

(農業振興普及部)

平成30年度稲作セミナー

〔12月25日(火)〕

新舞子ハイツで、作業受託部会・環境にやさしい米づくり部会・産米改善協議会の3団体合同で稲作セミナーを開催しました。

セミナーでは、当所農業振興普及部の作物担当職員による今年度の作柄と次年度に向けた栽培技術についての説明の後、ヤンマーアグリジャパン株式会社から最新の技術情報として「密苗」と高性能田植機について説明がありました。



(セミナーの様子)

生産者からは最新技術について活発な質問が出され、産地力強化に向けた意見交換がなされました。

(農業振興普及部)

いわき市漁協久之浜支所出初め式

〔1月8日(火)〕

いわき市漁協久之浜支所の出初め式が執り行われました。式は久之浜漁港の荷捌き施設で行われ、代表理事組合長をはじめ、久之浜支所の漁業者約30名と漁協職員、女性部員、地域住民など合わせて約70名が参加しました。

出港に先立ち、神職が祝詞を奏上し、漁船と船頭へのお祓いをした後、玉串を神前に捧げて礼拝し、今年の漁の安全を祈願していました。神事後、最も大きい底びき網漁船を先頭に、底びき網漁船、小型漁船の順に30隻ほどが出港しました。



(神事の様子)



(洋上を航行する漁船)

震災後は、3年前から出初め式の際に出船するようになったのですが、参加者も年々増えてきており、岸壁から船を眺めている人も多くみられました。本格操業に向け、地域の行事として再び定着してきたのではないかと感じています。

(水産事務所)

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成30年12月分）

□ 農林畜産物の検査結果

平成30年12月の農林畜産物モニタリングでは、検査した7品目21検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。また出荷制限状況は（表2）のとおりです。 （企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

ハクサイ 1、ネギ 3、葉ネギ（施設） 1、菌床しいたけ（施設）9、菌床なめこ（施設）1、牛肉 2、原乳 4

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（12月末日現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらのめ（野生のものに限る）、 わらび（野生のものに限る）※、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

※わらび（栽培）は該当生産者6名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

□ 海産魚介類の検査結果

平成30年12月の水産物モニタリング検査では、485検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満の割合は、平成30年12月には99.4%となっています。1月18日現在の出荷制限等指示魚種は表の7種類になっています。

（水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	ヌマガレイ	ピノスガイ
クロダイ		

平成31年1月18日現在

林野火災にご注意！

平成31年1月に入ってから、いわき管内で数件の林野火災が発生しています。空気が乾燥するこの時期は火災が発生しやすく、強風時には大面積に広がる恐れがあります。

ひとたび林野火災が起きれば貴重な財産が失われ、失火の場合は森林法において森林の延焼に対する罰則規定があります。

林野火災の原因別件数のうち人為的な要因が6割以上を占めていることから、山では「火を使わない」ことを心がけて、火事を起こさないよう十分注意して下さい。

（森林林業部）

「小さな火 大きな森を 破壊する」

※平成30年全国山火事予防運動統一標語



速報!

第2回高校生レシピコンテスト グランプリ決定!!

1月27日(日)、“いわき市産トマト・ネギ・きのこ”をテーマ食材として開催した「第2回高校生レシピコンテスト」2次(実食)審査会において、グランプリ作品が右のとおり決定しました!当日の様子は、2月号で詳しくご紹介します。(企画部)

お知らせ1 実食審査の様子がテレビで放送されます!

- 日 程:平成31年2月9日(土)
- 番組:福島テレビ「サタふく」(11:30~12:55)内「ふくしま調査隊」(4分30秒程度)のコーナー

お知らせ2 高校生レシピコンテスト“実食キャンペーン”開催! 受賞作品がいわき市内5店舗で食べられます!

- 期間:平成31年 2月15日(金)~24日(日)
- 協力店舗:下記のとおり(店舗によって取扱時間やメニューが異なりますのでご注意ください。)

各店舗で提供するメニューや提供価格等の詳細は、当所ホームページ(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>)で随時お知らせします。この機会にぜひ、高校生の地元食材への情熱がこもったレシピをご堪能ください!

(株)マルベリィ
マンママリー
イオンモールいわき
小名浜店

小名浜字辰巳町79

(株)ワンダーファーム
ビュッフェレストラン
森のキッチン
※2/16(土)を除く

四倉町中島字広町1

いわきFCパーク3F
RED&BLUE
CAFE

常磐上湯長谷町釜ノ前
1-1

中華料理 華正樓

平下平窪四左工門内
152-6

創作麺 やま鷲

小島町1-8-4
坂本第2ビルA

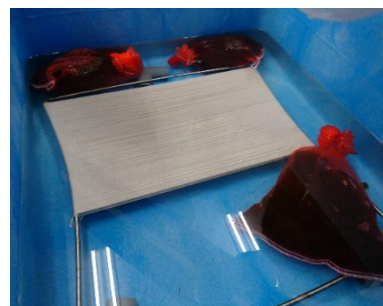
トピック2

藻場の復活を目指して!

〔1月16日(水)〕

沿岸の岩礁域でコンブやアラメ、ホンダワラ類など海藻が繁茂する場所は藻場と呼ばれ、アワビ等の餌環境や生息環境として、磯根資源の生産を支えています。いわき地区の採鮑漁業者で構成されるいわき市藻場保全研究会では、海藻が減少した藻場を再生するため、様々な取組を行っており、そのひとつとしてアラメの採苗、移植を行っています。

今年も1月16日にいわき市漁協の小名浜下神白の施設で作業が始まりました。寒さの厳しい季節ですが、漁業者が潜水採集したアラメ母藻を陰干しし、海水に浸漬して遊走子(タネ)を放出させてタコ糸に付ける作業を行いました。約1か月間かけて全長2~4mmまでアラメ葉体を生長させた後、漁場に設置する予定となっています。(水産事務所)



(人工採苗)
アラメ母藻(赤い袋内)と
付着基質(タコ糸)

イベント情報

いわき地域産業6次化ネットワーク交流会

- 日 時：平成31年2月21日(木) 13:30~16:10
- 会 場：福島県いわき合同庁舎 4階大会議室
(いわき市平字梅本15)
- 参加費：無料
- 主 催：いわき地域産業6次化運営会議

参加申込
2月13日
(水)まで

株式会社GNS常務取締役 廣田拓也氏による6次化商品のブランディングに関する基調講演や、当所及びいわき市保健所による食品表示法に関する研修を行います。廣田氏との個別相談も受け付けます(要事前申込)ので、お申し込みの上、ぜひご参加ください。

お問い合わせ・お申し込み

いわき農林事務所 企画部 TEL:0246-24-6197
当所HPより申込用紙をダウンロードしてお申し込みください。
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/306jikanet.html>

参加無料

「付加価値」の付け方教えます!

自社の元上げをV字回復させた

モノづくりからコトづくりへ

廣田拓也 氏

株式会社GNS 常務取締役
特定非営利活動法人Leaf 理事長
一般社団法人GNS代表 専務役員

【開催日】平成31年2月21日(木) 13:30~16:10
【会場】いわき合同庁舎 4階大会議室
【定員】50名(先着順)
【申込方法】申込用紙をダウンロードしてお申し込みください。

GAP見学ツアー

- 実施日：平成31年2月23日(土)
- 行 程：下記の2つのコースがございます。
申込みの際はご希望のコースをお選びください。
- 参加費：無料(ただし、昼食は自己負担となります)
- 主 催：福島県いわき農林事務所

出発時間が異なりますのでご注意ください!

参加申込
2月8日(金)
17:00まで

GAPの取組内容を理解していただくため、認証取得農場の見学バスツアーを開催します。農場を間近で見ることができ、実際にGAPに取り組んでいる生産者と交流することができます。

お問い合わせ・お申し込み

いわき農林事務所 農業振興普及部 TEL:0246-24-6161
電話連絡によりお申し込みください。(土・日・祝日を除く8:30~17:00)

【GAP(ギャップ)見学ツアー】

安全な農産物を提供する取組である [GAP] 実践農場を見て学びましょう!

GAP(Good Agricultural Practice)とは、

食品安全 環境保全 労働安全 人権保護 農場経営管理

農業活動を改善することで、より良い農業経営を実現する取組です。

北部コース		南部コース	
10:00 集合 出発	福島県いわき合同庁舎 (いわき市平字梅本15番)	9:00 集合 出発	ア・パース スタジアム 勿来店 (いわき市勿来町窪田十条3-2 マルトSC窪田十条内)
10:30 現地視察	農事組合法人 稲郷神谷	10:10 現地視察	株式会社 JRとまとランド
11:30 昼食	株式会社 ワンダーファーム	11:00 収穫体験	いわきファーム
12:40 現地視察	株式会社 JRとまとランド	11:00 昼食	株式会社 ワンダーファーム
収穫体験	いわきファーム	12:20 現地視察	農事組合法人 稲郷神谷
13:50 解散	福島県いわき合同庁舎	13:50 解散	ア・パース スタジアム 勿来店

参加費 無料(昼食はワンダーファームにて自己負担となります)
定員 各コース30名(応募者多数の場合は抽選になります)
申込時期 平成31年2月8日(金)17時まで
申込み・問合せ先 福島県いわき農林事務所
TEL:0246(24)6161 | 電話受付時間 9:00~17:00
E-mail: shinkouhukyu.af07@pref.fukushima.lg.jp

北部コース		
10:00	集合 出発	福島県いわき合同庁舎 (いわき市平字梅本15番)
10:30	現地視察	農事組合法人 稲郷神谷
11:30	昼食	株式会社 ワンダーファーム
12:40	現地視察 収穫体験	株式会社 JRとまとランド いわきファーム
13:50	解散	福島県いわき合同庁舎

南部コース		
9:00	集合 出発	ア・パース スタジアム 勿来店 (いわき市勿来町窪田十条3-2 マルトSC窪田十条内)
10:10	現地視察	株式会社 JRとまとランド
11:00	収穫体験	いわきファーム
11:00	昼食	株式会社 ワンダーファーム
12:20	現地視察	農事組合法人 稲郷神谷
13:50	解散	ア・パース スタジアム 勿来店

GAP コーナー

GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

認証GAP先進事例調査を実施しました [12月13日(木)]

福島市にて、JAふくしま未来 GAP部会の取組について学びました。団体認証取得に向けた取組を理解し、認証農場の現地見学を行うことにより、管内での団体認証取得推進に活かすことを目的として実施し、農業者7名とJA職員2名が参加しました。

まずは、JAふくしま未来南支店にて、営農部農業振興課営農販売強化対策グループ専任部長の佐藤雄一氏から、GAP部会の設立から認証取得までの経緯、JAの推進体制等について説明を受けました。その後、水稻GAP部会の丹治正志氏の倉庫にて、実際の取組内容の見学と、団体認証のメリットについて情報交換しました。



(丹治氏の倉庫を見学している様子)

佐藤部長はGAPを推進する際に、「産地として東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に提供可能な食材を作ることが必要」という信念を多くの生産者に伝えていました。丹治氏は、「JAの協力により、取得に必要な作業の負担は少なかった」と団体認証の良さをPRしていました。

同行した農業者やJA職員からは、「団体認証取得に取り組みたい」と前向きな意見が出ました。当所も今回の調査を活かし、管内のさらなる団体認証取得推進に取り組んでまいります。(農業振興普及部)

トピック3

いわき市の給食メニューが、全国学校給食甲子園で準優勝

いわき市立勿来学校給食共同調理場(安島伸夫所長)の水口公美副主任栄養技師が考案した給食メニューが東北・北海道ブロック代表に選ばれ、稲村のり子調理員と決勝大会に出場し、見事、第13回全国学校給食甲子園の準優勝に輝きました。

準優勝したメニューは、いわき市産のネギと梨を使ったネギぴょんソースがかかった「県産シマガツオの唐揚げ」、「ひじきとエリンギのえごまマヨネーズ和え」、地域の伝統芸能から着想を得た「流鏝馬汁」、トマにゃんのミニトマト、麦ごはんと牛乳で、塩分控えめで色彩も良く素材を活かしたメニューとなっています。



(H30年12月9日の表彰式の様子)

左：献立を考えた水口氏

右：調理員の稲村氏



(準優勝を記念したメニュー)

準優勝をにちなんで、1月11日には管内の中学校に、1月31日には小学校に同じメニューが提供され、多くの皆さんから、彩りも良くておいしいと好評でした。

考案者の水口さんは「準優勝となったメニューと同じくらいの献立を、常日頃から子どもたちに提供できるようにするのが目標」と話しており、今後ますますの活躍と学校給食を通じた食育の広がりが期待されます。(企画部)

「全国学校給食甲子園」とは…

地元食材を使った献立のおいしさや栄養価などを競う大会で、NPO法人21世紀構想研究会の主催。第13回となる今回は、全国の学校や給食センターなどから1,701点の応募があり、書類選考を通過した12点が決勝に臨みました。

こだわりと美味しさがつまった
いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

田人観光いちご園では、蛭田さん親子が柔らかい果肉と濃厚な甘みの特徴の「章姫(あきひめ)」を使った商品販売しています。試行錯誤の末に完成した「あきひめドレッシングソース」は、いちごの爽やかな酸味と玉ねぎの旨味が絶妙にマッチした逸品で、サラダだけではなく、ソテーしたお肉や白身魚のフライとの相性も抜群。いちごの淡く可愛いピンク色が食卓に彩りを添えてくれます。甘酸っぱい香りが口いっぱいに広がる「いちごジャム」、いちごとブルーベリーの美味しさが一度に味わえる贅沢な「ダブルベリージャム」も人気です。いちご狩り開園期間外は要予約となりますので、園までお問い合わせください。



お問い合わせ
田人観光いちご園
 ●いわき市田人町旅人字下平石 117
 ●TEL.0246-69-2448

あきひめドレッシングソース
 ●販売価格/500円(税込) ●内容量/180ml



**いちごジャム(左)
 ダブルベリージャム(右)**
 ●販売価格/500円(左)・600円(右)【各税込】
 ●内容量/各180g



いちご狩り情報
 ■期間/1月～6月 10時から16時まで
 ■定休日/火・水曜日
 ■料金/(30分食べ放題)1,300円
 ※3歳～小学生未満は1,000円



編集後記

1月も最終日となり、“遅ればせながら”のご挨拶ですが…皆様、あけましておめでとうございます。今年も当ニュースでは、管内の農林水産業に関する様々な情報をお届けできるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、いわき市内でも例年以上にインフルエンザが猛威を振るっていますが、1月27日に開催したレシピコンテスト2次審査会では5組の高校生に元気にご参加いただくことができました。高校生のアイデアあふれるレシピと地元食材への思いに感動です！今年も、実食キャンペーン(p.9参照)を予定していますので、この機会にぜひ！味わってみてください。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
 福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
 〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
 (県いわき合同庁舎 3階)
 T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
 U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース